

節口説

本調子

七	↓ ↑ サ テイ
五	
○	
四	
○	
乙	
四	
○	
四	
○	
五	
○	

五	ム
工	
○	
五	メ
七	デ
五	
工	タ
○	
工	ヤ
尺	
工	ア
五	ラ

工	タ
尺	マ
四	ノ
○	
四	
○	ハ
五	ル
○	
五	ワ
工	
○	
五	コ

七	コ
五	
工	ロ
○	
工	モ
尺	
工	ワ
五	カ
工	ガ
尺	エ
四	テ
○	

四	
尺	ヨ
工	モ
○	
五	ノ
○	
四	ヤ
○	
乙	マ
四	
合	ベ
○	

尺	ノ
○	
合	
○	ハ
乙	ナ
○	
四	ザ
○	
上	カ
○	
四	リ
○	

○	
七	ノ
五	ド
○	カ
四	ナ
○	ル
乙	ヨ
四	ノ

節口説

本調子

2/2

一、さてもめでたや新玉の
春は心も若がえて
四方の山辺の花盛り

（囃子）
のどかなる代の
春を告げくる
谷の鶯

夏は岩間を伝え来て
滝つふもとに立ち寄れば
暑さ忘れて面白や

（囃子）
風も涼しく袖に通ひて
夏もよそなる
山の下陰

秋は尾花が打ちまねく
園のまがきに咲く菊の
花の色々珍しや

（囃子）
錦さらさと思ふばかりに
秋の野原や
千草色めく

冬は霰の音添えて
軒端の梅の初花の
色香も深く愛であかん

（囃子）
花か雪かといかで見わけん
雪の降る枝に
咲くやこの花